BY MONICA SHEN

ベッド側のピッピちゃん

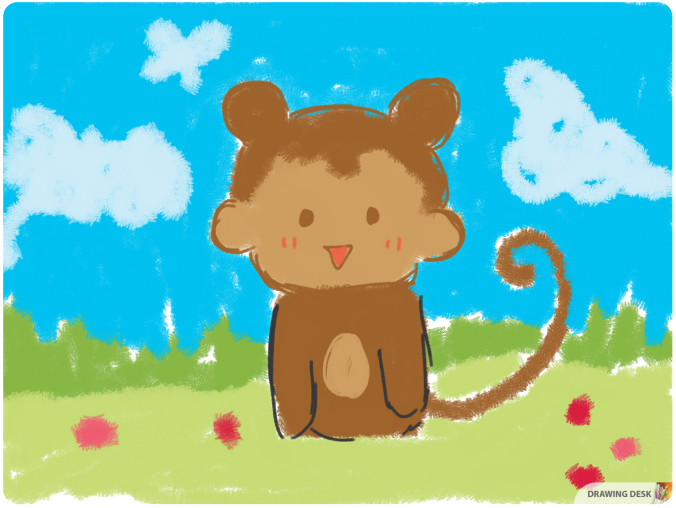
READING LEVEL: 1

文&絵　モニカ

JAPN3302
advanced Japanese
Spring 2021

ベッド側のピッピちゃん

母：さあ、良い子は寝る時間ですよ。ベッドに入ってお布団をかけて、「おやすみなさい」と言う前に、ちょっとベッド側のピッピちゃんが今日何をしたかを聞こうよ！」



はるか向こうのジャングル島には、百匹ほどのサルさんたちが住んでいました。日当たりが良いし、気候も暖かいし、木々がどんどん伸びていきました。夏の湿度が低く爽やかな気候でみんなは快適に暮らしていました。

サルさんたちの中に「ピッピ」と言う小猿ちゃんのことはだれもか知っていました。なぜなら、ピッピちゃんはとても悪戯っぽくて、森をうろつくたびにトラブルをからです。

ある日、ピッピちゃんはすぐに家に帰ろうとせず、外をうろうろしていました。「宿題って、多ければ多いほど、やりたくなくなるなあ！さて、遊ぼう！」と思っているピッピちゃんはランドセルを草むらに放り出して、そのまま友達の家へ遊びに行きました。夏になると、森のあちこちに生えている「バナナの木」が、菜の花のような明るい黄緑色で、小さな花を咲かせ始めました。新鮮な美しさに気づいたピッピちゃんは足を止めました。それで、友達のうちへ行こうと言う考えなどどこ吹く風で、見たことがない花を見に行ってみることにしました。

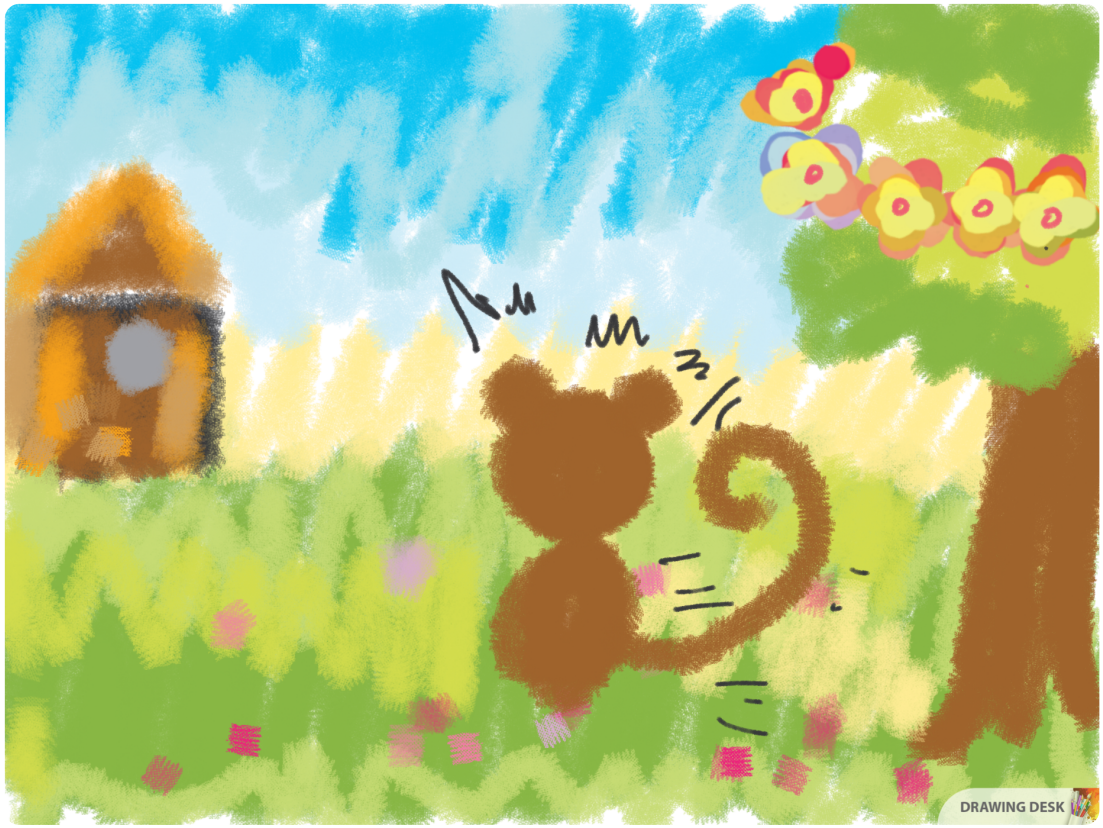
「あっ、綺麗だわ！」ピッピちゃんが叫びました。「でも、こんな木の上に咲いているのはもったいないじゃないの？全部を摘んで私の部屋に飾っておいとこう！」

すると、触っただけで花びらがひらひらと落ちました。それを見てますますイライラしました。バナナの木さんがだんだんむき出しになってきたので、しくしく泣いて「ピッピちゃん、やめろ！このままでは、今年は皆さんにバナナを提供できない恐れがあるよ！」と言いました。ところが、ピッピちゃんはそれを気がずに、逆に残っていた小さい蕾も摘んでしまいました。「私は私の花を摘み、あんたはあんたのバナナを育てる。関係がないのに、どうしてやめろと言うんだ？それに、摘まなくても、秋になると花達が自分で散っていくじゃないの？」

「花が散るのは自然現象だ。人為的に破壊するとしたら、わしの栄養がなくなっちゃうよ！花や葉は土地に落ちると、大地にじわじわ吸い込まれて、養分になれる。枯れ花のおかげで、わしはお腹が空かなくて、バナナを育てられるよ！」バナナの木さんは言いました。

そのような身にしみる言葉の通りに考えると、ピッピちゃんはとうとう自分の落ち度を認めました。「ごめんなさい、バナナの木さん！」ピッピちゃんは手に持っていた花輪にして、バナナの木さんの頭にかぶせました。

「いいから、いいから。ピッピちゃん、わしはもう爺さんだ。この花輪をつけているのはおかしいじゃないの？これを他の動物達に見られたら、嘲を受けるよ。早く帰ろう！宿題はまだしていないでしょう？」バナナの木さんは言いました。



「あ！しまった、宿題があることをすっかり忘れていた！じゃ、バナナの木さん、さようなら！」ピッピちゃんは急いで家に向かって走りました。

花達とバナナの木さんが笑っていました。「あらら、この子、ランドセルを忘れてしまった！」バナナの木さんが小さい声で言いました。

のどかで明(あか)るい夏(なつ)の日(ひ)がかんかんと照(て)っていました。

おしまい。

母：さて、あなたはどう思いますか？

今日、あなたも友達と公園で花を摘みましたでしょう？

それでいいのか？

ピッピちゃんは自分が間違っていることを知っていたが、花が摘まれてしまいました。もしタイムマシンがあるとしたら、過去に戻って間違いを正すことができるかもしれません。でも、現実にはタイムマシンがありませんよ！悪いことをしてから省みるのではなく、行動する前によく考えてしなければなりません。その上、自然はみんなのものだから、自然の美しさを自分のものにするのはいけないし、それを壊しても絶対にいけないはずですよ。

じゃ、おやすみなさい。